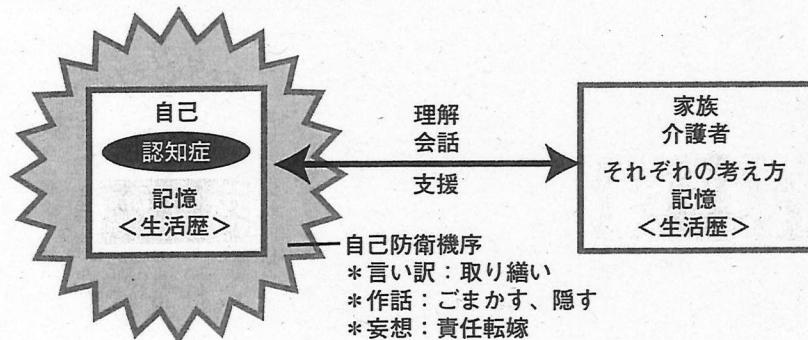


図 アルツハイマー病の特徴
言い訳・作話・妄想の背景にある自己防衛のしくみ



これまで、認知症の最大の原因疾患であるアルツハイマー病（アルツハイマー型認知症）の発症メカニズム（第2回）や、早期から出現する空間認知障害（第3回）や記憶障害（第4回・前回）について記してきました。

今回は、アルツハイマー病らしさがテーマです。

「らしさ」とは、アルツハイマー病の人が発する独特な雰囲気です。これがわかるようになると、会って1分もお話ししないうちに、その人がアルツハイマー病であろうと予測できるようになります。

アルツハイマー病の人は、身体機能がしつかりしていく「見健康」として、笑顔で愛想良く、失敗を取り繕い、作話や妄想がみられ、その時その時を上手に生きています。どうしてこのような態度をとるのか、その背景を探ります。

病態失認的態度

私は認知症の方を診察するとき、ますます年齢をたずねます。その時、「オレ、76だつけ?」と伴侶のほうを振り向けば、認

記憶障害と取り繕い

「毎日どのようにして過ごしていますか?」とたずねると、多くの方が「何も困ることはない」と答えます。家族は困っているのに、本人は「困っていない」と主張するのが特徴です。

「テレビはどんな番組を見ますか?」といった具体的な質問をすると、介護者から聴取した事実とは異なる返答があります。「大したことはしていない」「家の手伝いくらいだ」などと、漠然とした答えが返ってきます。

「このような、言い訳、取り繕い、作話、妄想といったアルツハイマー病の特徴的な症状は、社会生活を送るための自己防衛機序として説明できます。アルツハイマー病の人が示すさまざまな徴候の裏には、認知機能が消耗していくことへの漠然とした不安や苦悩が隠れています。失われていく認知機能の中で、精神、社会との関係を保とうと自己保存本能を働かせていく姿が、アルツハイマー病らしさの根源です。

ですから、言い訳や作話に対して反論することは、傷口に塗るような行為であることを自覚しなくてはなりません。

知症が始まっています。これは「振り向き徴候」と名づけられた症候です。何をたずねても、伴侶のほうを振り向いて確認するのは、自分の答え（記憶）に自信がなくなっているからです。病気が進行すると、確認せずに、いい加減に答えたり、平然と若い年齢を答えます。このようないい答えの背景には、強い健忘や見当識がないこと（病態失認）や自分の回答を手に加えて、その状態を認識できていません。

次に「何か困ることはありますか?」とたずねると、多くの方が「何も困ることはない」と答えます。家族は困っているのに、本人は「困っていない」と主張するのが特徴です。

「毎日どのようにして過ごしていますか?」とたずねると、多くの方が「何も困ることはない」と答えます。家族は困っているのに、本人は「困っていない」と主張するのが特徴です。

「テレビはどんな番組を見ますか?」といった具体的な質問をすると、介護者から聴取した事実とは異なる返答があります。「大したことはしていない」「家の手伝いくらいだ」などと、漠然とした答えが返ってきます。

「このような、言い訳、取り繕い、作話、妄想といったアルツハイマー病の特徴的な症状は、社会生活を送るための自己防衛機序として説明できます。アルツハイマー病の人が示すさまざまな徴候の裏には、認知機能が消耗していくことへの漠然とした不安や苦悩が隠れています。失われていく認知機能の中で、精神、社会との関係を保とうと自己保存本能を働かせていく姿が、アルツハイマー病らしさの根源です。

ですから、言い訳や作話に対して反論することは、傷口に塗るような行為であることを自覚しなくてはなりません。

— 第5回 — アルツハイマー病らしさを知る

今月のポイント

- 病態失認：健忘や見当識障害を認識できない
- 社会脳：社会で生きる知恵
- 作話、取り繕い、言い訳は自己防衛
- もの盗られ妄想で責任転嫁
- 自己防衛機序としてのBPSD



山口晴保

群馬大学医学部保健学科
教授・医師

専門はアルツハイマー病の神経病理学やリハビリテーション医学。
認知症の進行を防ぐ認活性化リハビリテーションにも取り組む。著書に『認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント（第2版）』（協同医書出版）など。

*機序（医学用語）：しき、メカニズム